

8. 環境教育

1. 井土メダカ保全事業（宮城教育大学連携事業）

東日本大震災により津波等の被害を受け、絶滅の危機に瀕した仙台市沿岸部の野生メダカの生息数を回復させ、以前の生息地での復活を目指す事業。震災の前年に、若林区井土地区にて調査・保全目的で野生メダカを採集していた宮城教育大学と協力して実施している。平成24年に事業開始して以降、有志市民に里親となってもらい、当該地域のメダカを飼育・増殖させてきた。令和元年度の里親募集終了までに里親となった市民は227組（うち学校6校、その他施設等4）。令和3年度には、メダカ採集地である六郷東部地区住民らの要望を反映する形で“東六郷コミュニティ広場”内に作られた「メダカ池」への放流が行なわれた。

令和4年度には里親イベントとして、宮城野区沿岸の“カントリーパーク新浜”にて、「井土メダカのためのビオトープ作り」を実施し、令和5年3月をもって里親制度を終了した。また、仙台市若林区と共同で仙台市が主催するSDGsWeek2022や仙台防災未来フォーラムにパネルを出展し、身近な生き物保全の市民啓発に取り組んだ。さらに、身近な生き物や震災に関する学習受け入れのためプログラムを整備した。

2. ゾウ糞エコサイクル事業

動物の糞から作った堆肥を使用して学校で野菜を栽培し、収穫した野菜をアフリカゾウに給餌することで、自然界のサイクルを疑似体験するプログラム。園内で出る動物の糞を有効活用しつつ、アフリカゾウが自然界で担う役割や、アフリカゾウの個体数が減ることによる影響などについて学習をする。令和4年度は下記2校に対して授業を実施した。

<令和4年度の実績>

- ・仙台市立七郷小学校 2年生 146名

令和4年9月9日に、当園職員が七郷小学校に訪問し、アフリカゾウの特徴や生態について授業を行った。自然界のサイクルや、今回実施するゾウ糞エコサイクルについても説明した後、理解を深めるためにオリジナルのカードゲームを行った。

令和4年10月18日に、七郷小学校の児童が動物園に来園。実物のゾウの糞やゾウ糞堆肥を観察した後、ゾウ糞堆肥を施した畑で栽培したカボチャをアフリカゾウにプレゼントした。

- ・学校法人朴沢学園仙台大学附属明成高校 22名

令和4年11月1日に、生徒が動物園に来園。職員がアフリカゾウの特徴や生態について授業を行った後、ゾウ糞堆肥の仕込みを行った。



メダカ事業とSDGsパネル展（ザ・モール長町にて）



児童が作ったカボチャをアフリカゾウにプレゼント